

日 刊

ア 新東京

No.415

2010年
6月1日(火)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5690-2847
内線 4353

1 輸送

分会会議を開催！！

第3回全国大会議案に対しての意見集約

5月の第4週は、6月9～11日の日程で、千葉で開催されるJPP労組第3回全国大会にむけての意見集約のため、分会会議のラッシュウィークでした。

支部委員会において発言しました。

第3回全国大会は、第2回全国大会を基調大会とした中間大会としての提起であり、

現在取り組み中の課題や継続交渉中の課題が趣旨で、分会意見が前回と大幅に異なることはありませんでした。

最終日、5月19日(木)に支部事務室において6名の役員の参加をもって開催、集約した意見は5月22日開催の第2回

ただ、この分会会議が今回

で第5回を数え、分会としてのモチベーションやモラルが少しずつですが向上していることを確信しました。

会議の内容として、

①第3回全国大会にむけての意見集約。

②現在の分会活動における問題点提起と改善策。

③30万人組織建設にむけた行動の強化。

④ならば後援会加入カード集約促進行動の強化。

⑤職場における問題点。等々を話し合いました。

最後に、分会長から「今日は多忙な所、お集まり頂きありがとうございます。今回初め

て議案書を読んだ方は、すぐには理解出来ないと思います。全国大会は、雲の上の出来事。全国の郵政関連事業のあらゆる分野の組合役員が、一か所に集い議論します。話が大きく現場にそぐわないように感じられるかも知れません。ただ、かといって他人事にははいけません。せめて方向性ぐらいは認識してください。なぜなら、大会決定事項は拘束力を持つからです。これから、支部委員会までの間、気付いた点は副分会長・書記長に伝えてください。支部委員会で発言します。」と、締め挨拶があり感動しながら閉会しました。

分会会議で出された主な内容

- パートナー社員の正社員化のスケジュール等はつきりさせ早めの周知徹底を。
- I型契約社員の更なる処遇改善を。正社員化にこまかされないように底上げを。
- 支部・分会にユースネットワークが存在しない職場形成に問題。改善を。
- 女性フォーラムは新東京にあるのか。女性の地位向上は必要。役員選出は強制にならないように…
- J P総研は、合理論紙として位置付けてまで存続させる必要があるのか。
- あらたな人事給与制度は、郵政改革に伴い中断して欲しい。
- 議案書の表現が組合側の文言とは思えない。
- 2号議案で2009年度の間決算を掲載して欲しい…
- 宅配便事業統合関連は慎重な対応と早めの情報提供を…等

フットサルサークル (FC新東京)

ミス/フットサルフラザ主催 日曜BUNBリーグで遊賞！！

5月23日(日)に夢の島BUNBで開催された試合に参加し、投票の結果遊賞を勝ち取りました。選考方法は、参加チームで今大会最も楽しそうにプレイしていたチームを投票し、得票数が最も多いチームが遊賞。見事栄冠を勝ち取りました。今後もサークル活動を通じ、支部・分会の活動を支援しつつ楽しみながら活動していきます。



窓口課の問題点を再び問う

* マンモス窓口

新東京の引受窓口は、多いときで一日に板パレで500枚以上、300万通を超える郵便物が持ち込まれる。年間にして800億の金が動く職場だ。

* 引受の諸問題

引受での諸問題は後納差出が圧倒的に多く、未だに改善されていないのが実情だ。大量の差出でありながら指定継走形態で出されなかったり、異重量差出でありながら異重量内訳書が添付されてなかったりする。中には郵便物が先に来て後納票（郵便料金）はあと持ち込みもある。当然正解も分からず、交付もできず未納で止めておくことになる。

相対契約のゆうメール差出は、差出支店ごとに条件を付けられるはずだ。条件を決めて、差出方法・差出時間の形態を変えて、差出計画書の提出必須化を進めれば、物数の把握や的確な要員配置も可能となるだろう。だが、問題は要員だ。圧倒的な要員不足。様々な理由（保管場所の確保等）でフォークリフトによる引受を余儀なくされる。誰でも乗れるわけにはないため、要員の不足時間帯（食事）では引受検査が滞ってしまう。引受に始まり、検査、立て札、交付、台車の回収、板パレットの整理、残留点検と多岐にわたる。さらに他課の者の指示が入り、作業が中断する事も。また、他課の処理状況に左右される職場でもある。人が行き交う中でのフォーク作業も尋常ではない。十分な作業スペースが確保できず安全が脅かされている。安全靴云々の次元ではない。

* 応援で賄うクイズ点検

私書箱業務では受取人払い郵便物の承認が日々増え、クイズ関係はキャンペーンの更新が常態化。

(裏面へ)

エコポイント郵便物や身内関連の郵便物処理に他課・管理者の応援が入り日々業務に追われている。応援の弱点として誤区分、誤交付が今後の課題だ。

***どこまでがメンテナンスか**

電子内容郵便物の交付処理は、その日の機械の調子に大きく左右される。大規模なシステムを組んでいるわけだから業者が行うメンテナンス(保守・点検)は不可欠な作業となる。が、日々発生する機械のトラブルに社員が行っている補修の頻度・程度をみると、クレーム扱いが妥当という場合もある。機械のトラブルに起因する交付遅延が損害賠償に発展するおそれもあるだろう。メンテナンスと我々が行う補修作業の線引きも曖昧である。

***異常な処分**

ゆうメイトに対する処分の厳しさも異常だ。先日、窓口課の書留交付の担当者(ゆうメイト)が、一般書留を簡易書留と勘違いし、誤交付してしまった。その責めを厳しく追及された結果が訓戒処分だ。正社員ならまだしも、時給制のゆうメイトならまずは嚴重注意で反省を促し、その上で再発防止に努めていくべきではないのか。初めてのミスで始末書、訓戒処分となれば給与に影響し、ゆうメイトのモチベーションは下がるばかりだ。重い処分を下せば事故がなくなると思っているのだろうか。

***業務の分散化**

窓口課が旧二輸送から独立し、決済系システムの導入を経てからこの間、数々の問題点を窓口分会は指摘してきたが、一向に改善されていない。

窓口社員が悪者にされた低料第三種の問題も総括されず、キャパを超えた窓口業務を綱渡りで行っている現状を見れば、会社側の窓口課に対する認識の甘さと危機管理能力の低さがよくわかる。

もはや小手先のカイゼンは通用しない。新東京支店全体の効率化を本気で考えるならば、抜本的な窓口改革(業務の分散化)しかない。窓口課に従事する社員たちの声を真摯に受け止め即実行すべきだ。

(投稿)

日 刊 A 新東京	No. 4 1 7	2010年6月3日(木)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

宅配便事業承継に伴う直前直後対応について

郵便事業会社は本部に対し、宅配便事業承継に伴う直前直後について説明を行ってきました。

本部は会社に対し、「宅配便事業統合に伴うターミナル支店の新設及び地域区分事務等に関する具体的実施計画」の提示に併せて示された「郵便事業における宅配便事業統合の概要・準備」及び「宅配便事業統合に向けて」において、未確定となっていた宅配便事業承継にかかる具体的な準備作業や直前直後対応についても、早期に示すよう求めてきたところであり、また、5月14日・15日に開催したブロック別支部代表者会議においても、直前直後対応を含めた今後の対応に関して多くの質問が寄せられたことも踏まえ、対応を強化してきたところです。

会社はこの間、各会社の宅配統合推進室長及びオペレーション担当部長等を招集し、宅配便事業承継の円滑な立ち上げに向けた直前直後について説明・意見交換を行い、支社から出された意見等を踏まえ、最終調整を行ってきており、本部は、こうした動きと並行して直前直後対応等に関する検討状況について前広な情報提供を求め、宅配便事業承継を円滑に進める立場にたって、

①6/30～7/1の立ち上げ時に統括支店・ターミナル支店の円滑な業務運行体制を確立すること、②必要な要員が確保されていること、③集荷・再配達依頼、顧客からの問い合わせ・クレームへの対応や、支店からの問い合わせに対応できる体制を確立すること、④顧客マスタが遺漏なく整備されること、等について強く要請し、直前直後対応等への意見反映に努めてきたところです。
(うらへ)

特に新設ターミナル支店の業務開始時には、説明資料P.14「拠点別内務オペレーション移り変わり」にあるとおり、ターミナル支店に異動または契約替えとなる現JP社員または期間雇用社員のうち、7月1日の勤務が必要な社員について、6月30日を非番指定の上、23時から非番出勤とし、24時まで待機（廃休非番1H、135/100支給）とする扱いをせざるを得ないことについては、その必要性は理解しつつ関係社員に対して丁寧な対応を行い、通勤事情も考慮の上、柔軟な対応とするよう求め、会社から「関係社員の通勤事情も考慮の上、23時からの待機に拘わらず22時からの待機も可とし柔軟に対応したい」との見解を引き出したところです。

今回示された直前直後対応は、総体としてJP労組が提起した考え方に概ね沿ったものになっていると判断しますが、7月1日の宅配便事業承継は失敗が許されないものであり、本部は引き続き、直前直後対応を含め事業承継に万全を期す立場から、今回示された内容に基づき、フロントラインスケジュールを柱とする各種準備作業等の進捗状況を注視しつつ、支部・地本及び地本・本部間において連携を取りながら、適時適切な対応を図ることとします。

また、本件については、労使が共通認識を持ち、一体となって取り組むことが重要であることから、地本段階、支店段階においても、宅配便事業承継を円滑に進める立場から、必要な意志疎通を行うよう会社に対し求めたところ、会社も了としているので、各機関においても必要な対応を図られるよう要請するものです。

以上

日本郵政グループ労働組合 第3回定期全国大会

2010年6月9日～11日
千葉県『千葉ポートアリーナ』

第4回分会会議開催

第二ゆうパック分会

5月17日、支部事務室に於いて、第4回分会会議を開催しました。この日は、明け、休みの人を含めて、7名の参加。すでに、他の分会からも報告があったように、今回の議題は「第3回定期全国大会」議案についての意見集約を中心に行いま

した。

① 春季生活闘争について

月給制契約社員の「2,000円アップ」については良しとするが、社員についてはベアも見送り、一時金もカットされた。納得できない。来年の春闘にはベア要求を求めて欲しい。

② JPEX承継について

2月に総務省の認可が降りて今年の7月にJPEXを解消してJ-Pが承継することになった。

物量は平常の1.7倍になるという。JのJとJより、職場

では様々な問題が出てくる。

なぜ夏期業務と重なる時期に承継をしたのか納得できない。

要員が300人位増えるとの話もあるが、今の休憩室に収まらない。

また、輸送容器が現在のロールパレット以外に、日通のパレットも使用するという。

到着パレットの置き場も考えたと保管場所がない。

切り替えにも時間がかかる。等々想定される。

相変わらず情報も不足している。

分会としては、7月の承継には無理があるという事で上部に意見反映するという結論に

日刊
ア
新東京

No.419

2010年
6月7日(月)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

なりました。

JPEX承継について

その後の情報

「郵便事業会社は本部に対し、宅配便事業承継に伴う直前直後対応について説明をおこなってきました。会社はこの間、各支社の宅配統合推進室長及びオペレーション担当部長等を召集し、宅配便事業承継の円滑な立ち上げに向けた直前直後対応等について説明・意見交換を行い、支社から出された意見等を踏まえ、最終調整を行ってきており、本部は、こうした動きとして直前直後対応等に関する検討状況について前広な情報提供を求め、宅配便事業承継を円滑に進める立場にたつ

て、①6/30～7/1の立ち上げ時に統括支店・ターミナル支店の円滑な業務運行体制を確立すること②必要要員が確保されていること③クレーム対応・支店からの問い合わせに対応できる体制等を強く申し合わせてきた」とのことです。

いずれにしても、6月中旬から夏期繁忙に突入し、7月にJPEX承継になり、現場が大混乱になることは必至です。

③新賃金制度について

今回の全国大会で結論を出す訳ではないが、どうみても納得できるものではない。一部の「やった人が報われる」制度では競争が生まれるだけだ。

以上、全国大会議案について

は5月22日の支部委員会に意見反映しました。

（明日の日刊に詳細）

職場の問題点について

現在の仕事については他課との関連で問題があるが、7月の事を考えると、あと1ヶ月の事だから仕方ないかとなってしまうが、それでも改善していく必要がある。

課長を通じて申し入れていくことにしました。

※6月15日、地本、支部、ゆうパック分会合同の会議が開催されます。意見のある方は分会役員まで申し入れて下さい。

（第二ゆうパック分会投稿）

第2回支部委員会開催 新東京支部の新しい歴史を 運動の積極的構築を

5月22日、西大島区民センターにおいてJP労組新東京支部の第2回支部委員会が開催された。

島村副支部長から「下山支部長は腰痛のため欠席します。今日の支部委員会はぎつくばらんに意見を出しあってもらいたい。新しい歴史をここに作るメンバーでつくるような、新しいJP労組新東京支部の作風というか運動をつくっていききたい。今日の支部委員会では、全国大会の意見集約と同時に定期支部大会（7月下旬予定）までの具体的な行動の意思統一をはかることも課題です」とあいさつがありました。井上書記長の進行で支部委員より発

言を受けました。

【発言】

（提案にあたって）

2バック 5月17日に分会会議をやった。JP EXはあとで発言する。春闘、社員の一時金カットについて述べられていない。ベア要求見送りは良くない。働く意欲が落ちる。けしからんと意志をたかめることが必要なのではないか。

2特 月給制が2千円で受給。時給制の30円要求どうなったのか。

1輸送 5月19日に分会会議やった。正社員化を強く求めてほしい。大

都市は利益を生み出すところ、たくさん求めていってほしい。
2輸送 1勤からの正社員の道筋は早急に解決して欲しい。

2普 正社員登用は全体を合わせても5千人いない。事業会社は集配が中心。現場は新陳代謝がおこなわれていない。担務が埋まらない。職場がまわらない。

1普 高校生の新採枠はどうなったのか、もつと採用して欲しい。

2特 正社員化試験は8月受付で11月採用となっているらしいが、募集の話どうなっているのか。反省点として、支部分会活動が停滞していると書いてある。分会活動強化や支部機能強化のための指導力発揮を。

（運動の具体的展開に向けて）

1普 女性フォーラムは女性が少ない。女性採用も求めてほしい。アクシヨン21活動は、女性の数が圧倒的に少ないため、無理矢理やることのないように配慮をお願いしたい。

（30万人組織建設）

1輸送 新東京にユースの組織がないのはなぜか。

3特 ゆうメイトの女性は増えているが、「コミユニケーションの場を作って欲しい」。

（郵政改革のとりくみ）

2特 現場には共助共援として求められてくるものもあるが最終的には現場にしわ寄せになる。2特は6年間に40名減らされている。要員問題として求めてほしい。

3バック 政治と金の問題、普天間問題などよくも国民の意思を裏切ってきたという気持ちがある。組合が政党にものを言っていくのか、政権交代したのだから国民を裏切らない政党になつてもらいたい。

1輸送 執行部が先頭に立ってしっかりと取り組んで欲しい。

2バック 正社員3千名、非正規7千名のJP EX社員が来るが現場には万全の体制（組合組織化）で移行してもらって欲しい。

1バック 社員は50歳以上が多い。10年前は100人以上いたが今は40名ぐらい。組合役員をやる人もいなくなる。今後が不安、新採をもつと求めてくれ。

2 輸送 役員の育成を支部として考えてほしい。

2 普 Lはどこで、大型は、収集はどこでやっているのかわからなくなっている。課代が少ない、なりたがらない。パワハラある。休みとれない。勤務きつい。

2 パック 課代になりたいひといない。パワハラがやられている。報告時にクソミソに言われて辞めようと思っっている人が多い。個別対応じゃなくて支部対応を求めろ。

(JPEX 精算・承継)

2 パック 昨年、組合員はふりまわされた。情報が少なすぎ。今回も少ない。大まかな作業回しは入ってくるが、あと一ヶ月なのに具体的でない。業研やっているけれど、???なものではない。隣の日通ターミナルを使うといっていたが使わないことになった(使用料年50億円)。全部うちでやる。量が1・7倍、毎日繁忙と同じになる。現行、1Hに7~8千処理が1万以上となる、ムリ。300人来るというウワサがある。休憩室などどうするのか。その人たちを組織するのにどうするのか。統合はお中元と重なり7月は無理

だ。こんなに混乱する時期に...というのが現場の声。現在、EF地域が混乱している。これからはA/D地域ですます混乱する。沖縄の日通はパンク状態らしい。

1 パック 天井は穴だらけ、雨もりする。会社はなかなか直さない...

2 パック 業研は10月とほとんど変わらない。自分たちで情報をさがしていくしかない。役員対象でオルグ的なことをやってほしい。JPEX関連で会議やろうよ。資料で想定できるもの、分析しましょうということ。全部降りてきてからではぜんぜん遅い。

1 普 多大な損失で出発。責任問題はどうなったのか。私たちはボールペン1本なくしてしまったと騒がれているのに、湯水のように使っているのではないか。お客さんの信頼が揺らぐ。

(その他)

2 輸送 労働災害が多すぎる。労災撲滅と会社はいつているが7月から新パレットが入ってくる。このままだと労災が増える。支店内のパソコン・プリンターは故障しても部品がない、時間がかかる。修理してもらおうと高額になる。修理より新しいものを求める。1

40名いたが現在47名になっている。経費節減というが荷物を積んでいない車が走っている。調査して欲しい。

1 輸送 人事制度は労働力政策としてはつきりさせていかなければ。

1 普 新人事給与制度の評価者と被評価者との「信頼確立」はどうやって回復するのか。深夜勤で1日機動班として他課へ行かされた。現場のことまるでわかっていない、どうなっているのか。

2 普 「バラツキ是正」は現実と乖離している。そこがおかしい。

2 特 新人事給与と制度のことは、3つしか触れられていない。評価者に対する能力しかない。それ以外はクリアされているのか。一部受結承認を求めると言われていたが、今後どのような道筋になっているのか。

1 輸送 上げるところを上げたら、「普通」の人は減る。この制度を中断していくように求める。環境が変わったのでいったんやめてしまえばいい。多面評価ができない。

2 パック 支部も見解を出してしまうと中身に入りその制度を認めてしまう

ようになってしまふ。ほんの少ししか評価されないなら誰も良いと思わない。

1 輸送 JP総研。必要性が疑問に感じるといふ意見あり。

2 普 組合費が年齢制になっている。正社員登用でいきなり4千円になった。経過処置はないのか。

2 特 4月15日に人事交流があったそうだが、実際はどうなのか。

2 パック 会社から対話があったようだ。人事交流みたくがあるといわれていた。ほかにはないのか、はつきりしてほしい。

2 特 正社員化は、みんな期待している。30時間という条件の緩和を求めてほしい。また、新東京の場合勤続年数が長い人が多い。勤務期間をも加味するように求めてほしい。

支部執行部は、支部委員から出された意見に対してすべて答えるとともに「職場からの意見をしっかりと受け止め、整理したものを地本招集の支部代表者会議で発言してきます」とまとめた答弁を行い第2回支部委員会は終了となりました。(以上)

日刊
ア新東京

NO 4 2 2

2010年
6月10日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

第3回定期全国大会 傍聴記速報(1)

菅新政権の中で郵政改革法案、 宅配便統合、参議院選の行くえは？

6月9日、全国大会初日、あいにくの雨模様の中、全国各地から多数の大会構成員が会場となる千葉ポートアリーナに集結し活気に満ちていた。

会場はとても広く二階席もあり、一部の二階席にも構成

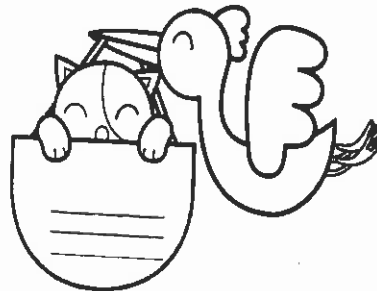
員が座っている。ステージには大型モニターが設置され豪華絢爛。初参加の私は大会規模の大きさにただ驚くばかり。：。

大会初日前半は、竹内法心委員長挨拶から始まり、た

くさんの来客から祝辞を頂戴した。

委員長の

挨拶は別途報告するが、「ならば」さんの話の時には声を荒げる要請となった。



来客挨拶を民主党副代表、日本郵政社長斎藤次郎社長、郵便局長会長柘植芳文会長、国民新党自見庄三朗、赤松前農水大臣、千葉市長などたくさんの方々から頂戴し昼食となった。

昼食後も中井、小沢両大臣からの挨拶があり、政府要職の方々が来賓で来ていること、政権交代の影響か来賓挨拶も豪華に感じられた。

国会議員の挨拶の要点は主に二点。今国会で郵政改革法案を成立させたいこと。「なれば」行動のさらなる強化の要請であった。

一三時三〇分ごろ本部から一般経過報告があり、一四時三〇分議案の提起がなされた。議案書の内容をそのまま提起するものであった。

その後、一六時二〇分から代表質疑がおこなわれた。

やはりポイントは宅配便事業統合であり今日質疑をした八地本すべて、情報の流れの遅さ、現場の混乱を切実に訴え説明を求めていた。

東京も例外ではなく宅配便関連、非正規社員の本務化、総合サービスなど七点の質疑をし制限時間をオーバーする一幕も……。

最後にUNII代表から挨拶があり一日目休会となった。
(つづく)

2010年 国際貢献ボランティア活動を支える
「ラオス・フィリピン」カンパの
協力ありがとうございました。

総額11万881円でした。

第三回定期全国大会
6月9日から11日まで開催中

日刊
ア新東京

NO 423

2010年
6月11日(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

第3回定期全国大会 傍聴記速報(2)

6月10日(木)大会二日目、昨日の天気とは打って変わわり、雲ひとつない快晴のなかでの開会となった。この空のように明るい未来が私たちに訪れることを予感させるような天気だ。

今日は昨日に引き続き1号と4号議案の質疑と答弁が行われた。1号議案の質疑答弁

で17:00までを要し確認されたが、満場一致とは言えない状況での確認と感じ取れた。大会質疑では大半が人的制限、時間的制限に苦悶しながら、日常の分会および支部活動を実践せざるを得ない現状を話し、代議員全員が疲弊しきつていることが感じとれた。そうした中での組織基盤強化に困難さを訴える場面が

多々、見られた。また、九州地方の代議員からは、宮崎で問題になっている口蹄疫の悲慘さを訴え、地方本部で義捐金の集約を実施。その後会社側でも義捐金を集める運びとなったことを説明。大会構成員にも協力の要請を訴えた。沖縄の代議員からは普天間の問題に触れ、毎日1件米兵の事件が発生することや恐怖と不安に悩まされながら日々生活せざるを得ない沖縄県民の実態を説明。民主党への風当たりが厳しい現状を話しながらJ P 労組23万人の力を結集し、ならば勝利を勝ち取るため行動するとの力強い決意表明がなされた。

また、答弁内容の詳細は後日JP労組新聞等で報告されるので省略するが、正社員化の施策について明らかになった部分もあったので報告したい。

会社は11月ごろに正社員化の施策を実施するとしているが、前後に基準日を設け、基準日時点で3年以上の時給制、2年以上の月給制契約社員に対し実施する。なお、月給制は時給制として勤務した期間を含む。4月1日の雇用契約が週30H以上が基本とするが、特例として、会社都合で勤務時間短縮された社員や、10年以上を超えて勤務

している社員もいるため、現状との整合性を求めた。そして、週30hに満たない場合でも要件に準ずると所属長の判断で認める場合は可能とする。

1 昨年度の週所定契約時間が30h以上

2 勤続年数が長期にわたる場合

正社員化施策のスケジュール

6月下旬・・・応募締切

7月上旬・・・1次試験

7月下旬・・・審査・合否通知

9月上旬・・・2次試験
10月上旬・・・審査・合否通知

感想として、構成員が非常に若く、また女性が多いことを実感した。また、発言者にパートナー社員が2名いたことにも驚いた。

新東京にもたくさんパートナー社員組合員がいることを振り返り、職場に帰り活動を再確認しようと思った。

第3回定期全国大会は、本日まで開催されず。

刊
日
新東京

No.424

2010年
6月14日(月)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

第3回定期全国大会 傍聴記速報 (3)

なんばナンバーワン

全組合員が一致団結し勝利必勝にむけ戦い抜こう

三日間の日程で開催された第3回全国大会も最終日となる。

昨日までの白熱した議案審議も終了し、確認のための重要な一票投票の予定である。

しかし、昨日(10日)郵政改革法案を巡る情勢が大きく変

化したことから中央本部書記長より今までの経過と中央本部の考え方の提起がなされた。

昨日までの審議では、郵政改革法案への取り組みにあたっては国会会で成立を目指すこととしていたが、次期臨時国会の開催を早期に求めそこで法案成立

を目指すこととした。また、このことから参議院選挙は、当初予定通りの6月24日公示、7月11日投票の見通しとなり、なんばの勝利がさらに重要となったこと。そして、この戦いが組織の命運と郵政事業の将来をかけた最重要課題であり、全力で取り組むことが提案された。

その後、議案ごとの一票投票が行われた。参考に開票結果をお知らせすると、

代議員定数455名中出席代議員数が449名、投票券配布枚数449枚。

1号議案 有効投票数446
賛成387 反対59 無効3

2号議案 有効投票数447

賛成391 反対56 無効2

3号議案 有効投票数448

賛成430 反対18 無効1

4号議案 有効投票数449

賛成423 反対26 無効0

5号議案 有効投票数444

賛成415 反対29 無効5

すべての議案について承認・決定がなされ議案書の（案）の文字が抹消された。また、一般経過報告等についても承認がなされた。

その後、大会宣言の読み上げによる提案があり中身を一部抜粋すると：「私たちJP労組は第3回定期全国大会で郵政改革



法案への対応、30万人組織建設にむけた取り組み、ゆうパック再スタート等当面する諸課題への対応方針を確認するとともに、なんば奨二必勝に向けた意思結集と再出発をかけた行動展開を全会一致で確認した。：郵政改革をより確実なものにするためには目前に迫っている参議院選挙が非常に大きな鍵をにぎっている。：なんば奨二がJP労組の代表である。なんば勝利がJP労組の勝利である。なんばナンバーワンこの合言葉のもと全組合員が一致団結しなんば勝利必勝にむけ戦い抜こう」拍手喝さいのな

か承認された。

地元関東地本の大会準備員の組合員への感謝の意を表し満場の拍手を送った。

いよいよ大会も終盤、なんば奨二の熱い、熱い決意表明が行われた。盛大な拍手に包まれながら出陣した。最後に議長団の解任があり、長きにわたる第3回定期全国大会も閉会となった。

今回傍聴団として参加して、この貴重な機会を与えてくれた関係各者に感謝するとともに、また全国の仲間が同じ時間とともに頑張っていることを知り伝えていくことが使命と感じました。

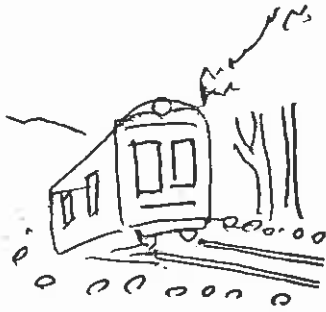
（全国大会傍聴記K）

源泉かけ流しの温泉

公共の宿「KKR宮ノ下」

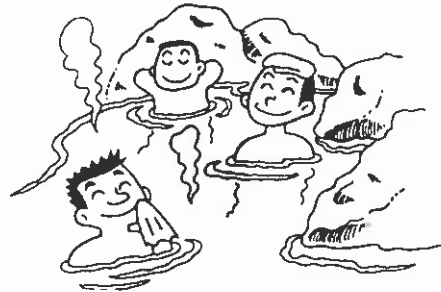
先日、旧い友人とともに久しぶりに箱根の温泉を訪れた。

箱根は都心からも近く、豊かな温泉と深い森林に包まれた日本有数のリゾート地です。食べ物も箱根山塊から採れる山の幸に、海が近いために伊豆周辺の近海で採れた魚貝類まで食卓のぼる料理は旅の楽しみを倍増



してくれる。

今回は、箱根湯元から箱根登山鉄道で30分弱の木賀温泉。箱根湯元の喧騒から解放された静かでこじんまりした温泉街である。宿は、登山鉄道宮ノ下の駅から急な坂道を15分ほど登った所にある「KKR宮ノ下」公共の宿としても人気があり、多くの人が訪れる宿でもある。広大な敷地に鉄筋4階の建物で



湯量は豊富で公共の宿としてはめずらしく内湯の他に、建物から少し離れた林の中に自家源泉かけ流しの露天風呂がある。青空の下で森林浴と温泉気分を満喫することが出来る。

今回の箱根の旅は6月の始めとゆうこともあって、箱根名物のあじさいの花の開花には早かったのが残念だった。あじさいの花の見頃は今月中旬から来月下旬にかけて、登山鉄道の沿線には約一万株のあじさいが車窓から楽しめる。また、今月19日からは夜間のライトアップもはじまり、昼間とは違った花見も楽しめる。

駅からは急な坂道だけに宿との間を車で送迎してくれることは有り難いが、ひとつ注文をつけてもらえば、内湯の湯槽を広くしてほしい。

(下)

日 刊 JP 新東京	No.4 2 6	2010年6月16日(水)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

1 宅配便事業統合に伴う支店別の必要要員数について

宅配便事業統合に伴う支店別の必要要員数は、現在 JPEX の直近の取り扱い個数を支店別、町名別に個数を各支店に示し、配達エリアの設定及び必要要員数を示しています。

東京地本は、5月26日の支部代表者会議で支店・分会別に取り扱い増個数に伴う必要要員数を周知してきましたが、①統合後の JP での必要数「外務（正社員・契約社員）」「内務（契約社員・休暇要員）」「集配受託者」、②事務員の受け入れ「正社員（出向）」「契約社員（JP で直庸）」別に必要数が記載されています。

①の正社員 SD は、現在、日通から JPEX に出向している正社員を転籍（JP で新規として採用）、外務契約社員は、JP への雇用替えとし JP での直接雇用、内務契約社員は、JPEX から雇用替えする社員と新たに JP で新規雇用する（休暇要員を含める）、集配受託者は、現在 JPEX で集配受託している業者を JP に契約変更し、受け入れる必要数です。

②の事務員については、正社員は引き続き日本通運から概ね、7月1日から12月末まで事務等の引継ぎとして出向として受け入れとし、契約社員は、現在 JPEX の事務員を JP で直接雇用することになります。

2 ゆうパックセンターの設置

宅配便事業統合に向けて、本社段階で組織改正について定まっていない関係から、東京施策として「ゆうパックセンター」の名称でゆうパック関係の営業・オペレーション等の管理体制の構築を図っていくとしたものです。

7月1日から、日本通運及び JPEX より正社員、期間雇用社員等を受け入れ等を含めて資料にあるように構成人員は大きな組織となることから、「ゆうパックセンター」とした組織体制の営業、オペレーションの管理を図る必要となります。

ゆうパックセンターの位置づけは、集配関係課に設置する方式で専任型と兼任型に分け、専任型はゆうパックセンター長を配置し、集配営業課と並列型とした態勢で連携を図る。兼務型は、第一集配営業課長を兼任とし、集配営業課の直下型とした態勢で連携を図る2パターンの組織体制を構築することとなります。

構成人員の所属は、第一集配課とし、集荷センターの社員及びゆうパック専担の期間雇用社員等については、第一集配課に所属を変更、正社員がローテーションでゆうパック配達を実施している支店の社員

についても第一集配課以外の所属であれば、第一集配営業課に兼務発令となります。

その際にサービス表の新設又は、変更が必要な支店がある場合は、サービス表交渉の扱いとなります。東京支社は、84支店にゆうパックセンターを設置して、配達・営業・集荷体制の高度化をはかっていくことにしています。

3 宅配便事業統合に伴う期間雇用社員の雇用条件等

宅配便事業統合に伴い、ゆうパックセンターに新しく雇用する期間雇用社員のうち SD 業務に携わる雇用単価及び資格給区分及びスキル評価の新設について説明をしてきました。新しく期間雇用社員として SD 業務に携わる社員及び JPEX から雇用替する期間雇用社員の来年4月からの雇用単価等として新設を行ったものです。

雇用単価については、通集配/混合と集荷の雇用単価のうち、高い単価を雇用単価とし、資格給については最高で550円（雇用時間5時間以上）、ゆうパックセンターではスキル基準のうち指定された地域内の配達ができるようであれば、スキルアップが可能とした設定としています。

東京地本は、宅配便事業統合における要員関係及び組織体制等について情報提供を受け、了承いたしました。

6月1日、郵便事業会社東京支社から JP 労組東京地本に宅配便事業統合に関する、業務運行の確保、要員の確保等の協力要請を受けたところです。

東京支社は、この宅配便事業統合において、混乱は避けられないとしても極力最小限に止めたい、お客様への不信やサービスの低下についてはあってはならないことは各支店に指示を出し、自支店の状況をきちんと把握し、事前態勢の構築を図るようにしています。

地本は、東京支社からの協力要請に基づき、各支部・分会において7月からの要員配置や事前の対策について、職場労使委員会の窓口等で十分な意見交換を図りつつ、支店段階での協力態勢を図るよう要請します。

なお、不明な点などがありましたら、東京地本まで問い合わせをお願いします。

日 刊	JP新東京	No.427	2010年6月17日(火)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

非正規社員から正社員への登用の推進について

6月10日付日刊(全国大会速報)で一部お知らせした正社員への登用について6月14日に整理が図られたのでお知らせします。

なお、採用規模数は示されていませんが「昨年を大幅に上回る正社員登用」を会社と確約をしていることから、一次審査終了後に採用規模数が示されることが予想されます。

したがって、採用数については、今後のJP労組の交渉によって確定するものであります。

1. 勤続3年以上とする考え方について

- ①平成22年10月31日時点で継続して2年以上となる月給制契約社員(時給制契約社員として継続した期間を含む)。
- ②平成22年10月31日時点で継続して3年以上となる時給制契約社員。

※勤続していない期間(雇用空白期間)が1ヶ月以内であって、当該雇用空白期間を除いた勤続期間が2年以上又は3年以上となる場合は、上記要件を満たすものとする。

また、休職期間、育児休業期間及び介護休業期間は勤続期間から除外する。

2. 週所定労働時間30時間とする考え方について

- 平成22年4月1日現在の労働契約における週所定労働時間が30時間以上であること。

※週所定労働時間が30時間に満たない場合(30時間未満で20時間以上に限る)であっても、長期にわたり勤務しており、「上記要件に準ずると所属長が認める場合」には、応募できるものとする。

3. 今後のスケジュールについて

応募開始	6月15日(火)以降準備出来次第
応募締め切り	6月28日(月)
受験票交付	7月下旬
一次審査	8月7日(土)、8日(日)のいずれか
※郵便事業会社においては、応募者の人数により追加する可能性あり	
一次審査合否通知	8月下旬
二次審査	9月中旬
二次審査合否通知	10月上旬
正社員登用	10月下旬

なお、所定労働時間が30時間に満たない場合であっても、長期にわたり勤務しており、「上記要件に準ずると所属長が認める場合」の基準については、会社都合により勤務時間が短縮されて契約更新をされている期間雇用社員も多数存在すること等、現状に見合った登用要件の緩和の整合性を本部は求めたのに対し、特例として、以下のとおり、労使確認をおこないましたのでご理解願います。

①平成22年4月1日現在の週所定労働時間が、30時間未満であっても、平成21年4月1日から平成22年3月31日の間の週所定労働時間が30時間以上であり、勤続3年以上の場合は、応募できるものとする。

②平成22年4月1日現在の週所定労働時間が30時間未満であっても、週所定労働時間が20時間以上であり、勤続年数が6年以上ある場合は、応募できるものとする。

※長期にわたる勤務に該当する勤続年数については、郵便事業会社における短時間社員の勤続年数との均衡も考慮し、6年以上として整理しましたのでご理解をお願いいたします。

日 刊	ア 新東京	No.428	2010年6月18日(金)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

仕分けラベル発行の壁 7/1 ゆうパック再スタートに向けて



携帯端末機を使って発行した仕分けラベル。郵便番号、追跡番号が印字され、その下6ケタの数字が仕分け番号。左が到着統轄支店、中央が集配拠点を表しています。

7月1日より、郵便事業会社の主力商品「ゆうパック」が、再スタートを切ります。商品内容の変更や、施設、オペレーションの大幅な改編等が進められているところです。

ところで、7/1より現ゆうパックを含むすべての荷物に、「仕分けラベル」の発行と貼付が必要になります。これは、統轄支店（新東京）で区分機にゆうパックを供給した際に、この仕分け番号を読み取らせて区分するためです。

この「仕分けラベル」の発行機能は、携帯端末機または窓口端末機に追加されます。

携帯端末機の仕分けラベル発行機能を選択し、7ケタの郵便番号を入力後、追跡番号を読み取らせ発行ボタンを押すと、プリンターから写真のようなラベルが発行され、それを貼り付けます。この間十数秒、2、

3個のゆうパックを引き受ける程度ならさほど煩わしくはないでしょう。

しかし3階のゆうパック窓口では、一度に大量のゆうパックが持ち込まれ、集荷センターにしても一件の集荷で数百個のゆうパックを引き受けます。つい先日、ロールパレット100台、1万個を超えるゆうパックの集荷がありました。

訓練用の端末で実機訓練をしたところ、100個のゆうパックに仕分けラベルを発行・貼付する時間は約40分。番号の入力を間違えると誤送の原因となることから、一件ごとに確認しなければなりません。集荷センターでは、通常期で平日1日当たり2500個の引き受けをしています。仕分けラベルだけで毎日16～17時間分の業務量が増える計算です。一人当たり1時間超の作業量、そして7月はまさに繁忙期。おそらく4000個近くになるでしょう。

「宅配事業統合に関する研修資料」には大量に差し出された場合の処理について書かれていますが、先に仕分けラベルを発行・貼付してから差し立てをし、その後で追跡情報を入力しなさいという内容です。順番を逆にただけで、解決になっていません。

シール式のゆうパックラベルでは、仕分け番号のバーコードが同時に印刷されるようになるという話も出ていますが、7/1に間に合うのか、またラベル式で差し出された場合はどうかなど、まだまだ不確定です。

JPEXを清算し、郵便事業会社が事業と資産を承継し、ブランドも「ゆうパック」に統一するのであれば、オペレーションにおいても現ゆうパックのやり方で統一して欲しいと思います※(1)。

※(1) 現在ゆうパックを利用しているお客様の引き受け方法に(仕分けラベルを別にして)変更はありません。しかし現在ペリカン便利用のお客様についての引き受けは、JPEX方式の引き受けとなります。この方式では差出表の提出がないため、荷物1個ごとに、運賃情報や追跡情報を入力させる必要があります。とんでもない労力です。

日
刊

JP 新東京

No.429

2010年6月21日(月)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部

TEL 03-5606-6784 内線 4353

宅配便事業統合に伴う調整概要について

宅配便事業統合に向けた準備を精力的に進められていますが、7月1日からのオペレーションの変更及びサービスレベル基準の変更などが行われる為、新ゆうパックの結末に係わる運送施設等の調整が行われます。以下、調整概要の主なポイント。

1 ゆうパック結束基準の変更

(1)引受基準等

ア 引受基準(サービスレベル基準)

現行	改正	備考
午前(支店 12 時引受)	支店 18 時引受	基準の一本化
午後(支店 18 時引受)		
OverNight(支店 21 時引受)	支店 21 時引受	現行のとおり
OneDay(支店 4 時引受)	支店 4 時引受	現行のとおり

イ 差立(送付)基準・・・都区内所在地域

引受	差立便
支店 12 時引受・取集 1 号便	伝送上二号便
支店 15 時引受・取集 2 号便	伝送補助上便
支店 18 時引受・取集 3 号便	伝送上三号便
支店 19 時引受・取集 4 号便	伝送上四号便
支店 21 時引受(OverNight)	最終補助上便
支店 4 時引受(OneDay)	下 1 折返し上便

(2)統括支店結束基準(新東京支店)

(ア)到着

到着時間	結束基準	備考
概ね 5:30 着まで	下1(午前配達)	特定パレットに係らず結束対象
概ね 6:30 着まで	補助下1(午前配達)	現行のとおり(30分繰り下げ)
概ね 11:00 着まで	下2(午後配達)	現行のとおり
概ね 14:00 着まで	下3(夕方・夜間配達)	現行のとおり
概ね 16:00 着まで	下4(夜間配達)	新設

(イ)差立

便名等	結束基準	備考
伝送上二号便	竹芝(島しょ)連絡便	現行のとおり
伝送上三号便	地域間あて運送便(下記除く)	現行のとおり
伝送上四号便	東京多摩あて運送便	東京多摩あて追加
OverNight 指定便	指定地域あて運送便	現行のとおり
OneDay 指定便	指定地域あて運送便	現行のとおり(指定地域範囲は縮小)

2 結節業務の廃止等

綾瀬支店における結節業務の廃止に伴い、同送付方法についても廃止する。また、トラック・航空便両地域においても送達経路を変更する。

3 ゆうパック地域区分事務の移管

〒82地域のゆうパック区分事務を北九州支店から、「新福岡支店(88)」へ移管する。

4 実施日

平成22年7月1日(木)の起点支店基準で暦日から実施する。ただし、同日0時以降に起点となる地域間便については、以下のとおりとする。

	現行	改正
郵便運送便	夕方配達結束対象便まで	翌々日結束対象便から
ゆうパック運送便	—	19時以降出発便

日 刊 JP 新東京	No.430	2010年6月22日(火)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

JPからJP EXに出向している 社員の復帰等について

本部は、宅配便事業統合により、昨年4月にJP EX統括支店へ出向した社員の復帰のスキームについて、全国大会においても答弁したとおり、特にJP EXにおける清算業務や残務処理もあることから、これら業務に従事する社員に復帰時期等も含め早期に明らかにするよう、郵便事業会社及びJP EX（以下、「会社」という。）に求め、公式・非公式に対応してきたところです。

この間の経過も踏まえ、郵便事業会社及びJP EX本社は、各方面との調整を終了したことから、本日（18日）、平成22年7月1日の宅配便事業統合による郵便事業会社からJP EXに出向している社員の復帰の扱い及びJP EXにおいて6月月次締め業務や決算締め業務の残務処理のほか残契約や残資産の整理等の清算業務を行う必要があることから、郵便事業会社からJP EXに出向している社員の復帰時期等の扱いについて説明してきました。

郵便事業会社に復帰する社員の扱いについては、復帰日を平成22年7月1日（木）とし、残務処理を行う必要がある社員については、郵便事業会社に復帰後も、その処理に当たらせ、清算業務に必要な社員は清算業務に従事後、郵便事業会社に復帰させるというものです。

本部は、会社に対し清算事務の規模について質したところ、現在約350名（管理者約170名、一般社員約180名）が郵便事業会社からJP EXに出向しており、このうち清算業務を処理するため一般社員約50名が必要であるとの考えを明らかにしました。

また、契約社員についても郵便事業会社に雇用替え後、原則、平成22年7月1日から2～3日程度の間、残務処理に当たるとしてはいますが、状況に応じ若干伸びる可能性があるとしています。

復帰者の復帰先については、原則、JP EXへの出向前の所属支店等に復帰させるとしつつ、復帰者のJP EXでの業務経験を有効に活用する観点から、要員事情や復帰者の適性等を考慮し、当該社員同意の上、他の支店に配属となる場合があるとしています。

この点について本部は、宅配便事業の円滑な移行を図る観点から、本件の取扱いについて理解するものの、昨年3月31日に締結した「JP エクスプレス株式会社への出向に関する協約」及び「JP エクスプレス株式会社への出向手続に関する了解事項」に基づき、当該社員の意向に反した措置とならないよう強く求めたのに対し、会社も「当該社員に対して丁寧に対応し、当該社員同意の上、他支店に配属する場合があるものであるので、理解願いたい」との見解を示していることから、本件について了承したところです。

また、復帰者の処遇についても出向前と同等とし、出向前所属支店以外に復帰する場合については、「復帰することとなったJP支店に適用される基本給の調整額、調整手当及び寒冷地手当（以下「基本給の調整額等」といいます。）と出向前所属支店において適用されていた基本給の調整額等を比較し、それぞれ高い方の基本給の調整額等を適用する。」としていることから、復帰する組合員の不利益は回避できたものと判断しています。

さらに、復帰者には「7月1日付でJPに復帰する社員」「引き続き出向となる社員」及び「清算業務終了後、JPに復帰する社員」それぞれに対し、JP EX管理者から別紙のとおり周知文を交付し説明していることから、本部は、これまでの事業協力に対して十分な労い等、配慮されているものと判断し、本件について諒承したので周知します。

日刊
新東京

No.432

2010年
6月24日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

沖縄全戦没者追悼式 6・23

二度と悲惨な戦争を起こしてはならない

昨日、梅雨が明け真っ青な空の下
の沖縄で、沖縄全戦没者追悼式
が糸満市摩文仁の平和祈念公園で
行われた。

米軍普天間飛行場を名護市辺野
古周辺に移設する日米共同声明や
政府方針が沖縄の声を踏みにじる
かたちで決まっていた。新たな
米軍基地建設に県民から反発が高
まっている中での65年目の慰霊

の日。

ちようど慰霊祭の中継をテレビ
で見ていた。平和祈念公園には暑
い中たくさんの方々が戦争の犠
牲者に祈りをささげ、不戦の誓い
を新たにしていた。

前嶋山首相は、普天間基地の移
設を国外・県外と公約していたが、
辺野古崎として日米で合意し、普
直人首相もこれを踏襲すると明言

した。この普直人首相があいさつ
しているとき「帰れ〜!」という
沖縄県民の怒りの声がしつかりと
マイクから聞こえてきた。

会場の県民からは「二度と悲惨
な戦争を起こしてはならない」「米
軍はいざとなっても沖縄を守って
くれない。早く基地を撤去してほ
しい」「首相はアメリカに基地はい
らないとはつきり言うべきだ」な
どと訴える声が続いた。

普天間高校3年の名嘉司央里さ
んが、基地があるという当たり前
の日常への違和感、戦争につながる
ものの存在を変えていくという
決意を込めた平和の詩を朗読した。
「平和の礎」には、24万09
31人が刻銘されている。

戦後65年、米軍基地がある限
り真っ青な空にも爆音が轟く…。

「変えてゆく」

今日もまたはじまる

いつもの日常

当たり前前に食事をして

当たり前前に好きなことを学んで

当たり前前に安心して眠りにつく

そんな普通の日

今日もまたはじまる

いつもの日常

当たり前前に基地があつて

当たり前前にヘリが飛んでいて

当たり前前に爆弾実験が行われている

そんな普通の日

一見「平和」に思えるこの小さな島

そこにいつの間にか当たり前前ではない

当たり前前であつてはならないものが

入り込んでしまつていた

普通なら受け入れられない現実を

当たり前前に受け入れてしまつていた

これで本当にいいのだろうか

平凡な幸せを感じながら

ただただ「平和」を望む今

簡単にこの違和感を

無視していいのだろうか

黒いたくさんの礎

刻まれるたくさんの名前

そこで思い知る

戦争が残した傷跡の大きさ深さ

何も幸せなど生まれなかった

何も手に入れたものなど無かつた

すべて失つたものばかりだつた

忘れてはならない

この島であつた悲しい記憶

目を背けてはならない

悲しい負の遺産

それを負から正に変えてゆく

それがこの遺産を背負い生きてゆく

私達にできること

変えてゆくのは難しい

しかし一人一人が心から

負である「戦争」を忌み嫌い

正である「平和」を深く愛する

そんな世界になれば

きつと正の連鎖がはじまるはずだ

六月二十三日慰霊の日

あの黒いたくさんの礎には

たくさんの人々が訪れる

そしてその一つ一つの名前に触れ

涙を浮かべながら語りかける

「今年も会いに来たよ」と

手を合わせ目を瞑り祈りを捧げる

その訪れた人々に

「平和」を願わないものはいない

「一度あつた事は二度ある」

そんな言葉を聞いたことがある

しかしこんな悲惨な出来事は

もう繰り返してはならない

だから・・・

「一度あつた事は二度とない」に

変えてゆこう平和で塗りつぶしていこ

う

その想いはきつと届いているはずだから

絆と誇りの再生へ 第3回定期地方大会開く

JP労組東京第3回定期地方大会が6月22、23日、地本執行部・代議員・傍聴者・来賓等、総勢約三百名が集まり、盛大に開催されました。大会は、「組合員の絆の再生、事業に対する誇りの再生」を活動コンセプトに掲げた2010年度活動方針(案)・予算(案)等が議題とし

て提案され、2日間に渡って活発な討議が行われ、執行部提案通り承認・決定されました。

東京地本・佐藤委員長は、大会の冒頭の挨拶の中で、先の通常国会において郵政改革法案が廃案となったことを重く受け止めているとし、臨時国会での

速やかな成立を目指すためにも、組織の命運をかけて闘う参議院選挙での必勝を強く訴えました。

来賓挨拶の中で、中央本部・宮越総務財政局長からは、先に行われた全国大会は23万2212人、2971人の組織純増で迎えることが出来たことが報告され、パートナー社員の処遇改善や期待に応え得る正社員登用の実現へ労使協議をさらに強めていく決意や、宅配事業統合は業務対応等で職場の不安払拭に迄至っていないと認識しているが・・・、全日通労組とも連携しJP EX社員の受け入れに万全を期すべく支部・分会の努力の要請がされました。多くの来賓がりましたが、「裏面へ」

【表面より】

連合東京・大野会長、郵便局
会社・鈴木支社長、郵便事業
会社・勝野支社長、東京郵便
局長会・蓮見会長、山花衆議
院議員から激励のご挨拶をいた
だきました。また、今参議院選
挙を戦う民主党比例選挙区
の「なんば奨二」、東京選挙区
の「小川敏夫」「運舩」各候
補者からは、熱いビデオメッ
ッセージが寄せられました。

東京地本・小林書記長の一
般経過報告の中では、この一年
間で1844(正社員602、
月給制119、時給制1123)
人の新しい仲間が加入して、2
万8818人で、今大会を迎え
ていることが報告されました。

大会討論は、運動課題と各事
業別の交渉課題とに大きく二つ
に分けて活発に行われました。
発言内容は大会報告の地本機関
紙に掲載されますから、参照し
て下さい。運動課題では、参議
院選挙闘争、組織拡大や次世代
役員の育成、女性活動、正社員
登用、サークル活動・・・郵
便事業の交渉課題は、宅配事業
統合、年末始業務対策、業務企
画室のあり方、各種施策の問題
点・・・等々でした。

私たち郵政グループ各社を取
り巻く状況は、長引く景気低迷
の影響と、成長が展望できない
民営分社化によって、厳しい状
況にあります。そんな中であつ
て、「真に組合員の幸せ実現」を

目指して3年前にJP労組を結
成し、各支部・分会で組合員が懸
念に努力を続けている姿につい
て、お互いに確認し合うことが
出来たと確信します。

参加した代議員・傍聴者は、
郵政改革の取り組み、組織拡大、
ゆうパック再スタート等への諸
課題に向かつて、力強く魅力あ
る組織・運動づくりに引き続き
努力すること。そして、目前に
迫った参議院選挙では、真の郵
政改革は無論のこと、組織の命
運をかけた闘いであり、JP労
組の社会的影響力のパロメータ
ーともなることから、総力を拵
げて圧倒的勝利を勝ち取ること
を全体で確認しました。

日 刊 新東京	No.435	2010年6月29日(火)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

記録区分機の配備について

郵便事業会社は本部に対し、記録郵便使用区分機の配備について説明を行ってまいりました。

書留郵便物等のオペレーションコストの改善を図るため、取扱物数が多く、効率化が見込める14統括支店（17台）に記録郵便使用区分機を配備し、配備後は差立区分及び配達区分の集中処理を計画しているというものです。

なお、被集中処理支店については、現在、検討段階であるとしています。配備支店等については、下記を参照。

対象郵便物は簡易書留又は特定記録とする郵便物とし、配備予定時期については、新東京及び新大阪支店が平成22年10月中旬から11月15日（月）まで、それ以外の支店は平成23年1月中旬から2月14日（月）までの間に順次配備するとしています。

なお、会社は本案件に関する要員措置については別途としつつ、関係支店において模様替え工事等の準備が開始されることから、本部としては一先ず情報周知を行い、差立区分及び配達区分の集中処理にかかるオペレーション見直し概要を示させた上で、協約に基づき対応を図っていくこととします。

支社	支店名(流れ:口数)
東京	新東京(左:200口)(右:200口)(左:160口) 東京多摩(左:200口)

処理速度 30,000通/時

※東京支社管内のみ抜粋

支部大会開催日決定！！

日時：2010年7月31日(土) 10時～

場所：「ホテル ラングウッド」

〒116-0014 荒川区東日暮里5-50-5

議案：(1) 第1号議案 2010年度活動方針(案)

(2) 第2号議案 2010年度予算(案)

(3) その他

第3回定期支部大会代議員選挙

分会名	定数	追加定数	合計
共通分会	2		2
郵企・法営分会	2	1	3
第一普通分会	2	4	6
第二普通分会	2	4	6
第三普通分会	2		2
第一特殊分会	2	3	5
第二特殊分会	2	4	6
第三特殊分会	2	4	6
第一輸送分会	2	3	5
第二輸送分会	2	1	3
窓口分会	2	2	4
第一ゆうパック分会	2	2	4
第二ゆうパック分会	2	2	4
第三ゆうパック分会	2	2	4
合計	28	32	60

※立候補届出締切日 2010年7月26日(月) 17時まで

JPEX精算・承継 ゆうパック再スタート秒読み 祭りだ祭りだ！ワッシヨイワッシヨイ！

さて、JPEXの精算・承継もいよいよ明日となりました。

本社・支社をはじめ、多くの職員が、明日午前3時の統合対応のためにしっかりと準備してきた：はずである。

日通そしてJPEXで使っていた「ロールボックス（L）」を見たことのある方は、まずその大きさに驚

くだらう。普段使っているパレット（以下Pと称する）でもゆうパックを積込むと300kg近くになる

のだが、このPではそれこそ500kgぐらいになる。あるひとの話によると：このPが転倒して作業していた方が亡くなる事故が発生したことがあるという。

私たちの作業の流れや使う機器

や機材の変更時には、どこに危険が潜んでいるのか十分な安全管理が必要となるのは言うまでもない。また、1万個／hのゆうパックを区分機に供給しなくてはいけないような物数量が想定されている。

「西へ持ってけ〜やれ北側だ〜」「それ、外周だ、都内だ」「あたってください〜」「祭りだ祭りだ！というノリでやるしかない」「業研もまだ徹底されていない（先週金曜日現在）」という話も聞く。

毎日が繁忙期のようなだ：という説明であれば：疲れた身体を休ませるための休憩休息室の整備も、とても足りてるとは言えない。統合時に間に合わないのであれば事後的にでも環境整備をしてもらいたい。くれぐれもケガのないように、統合の成功を祈りつつ…。

「花岡事件」の記念館が開館・歴史語り継ぐ

「ろく・さん・まる」を知っていますか。

2010年4月17日、秋田県大館市花岡町に「花岡平和記念館」が完成し、開館式が行われた。

第2次大戦中に徴兵強化により日本国内の労働力が不足してきたため東条内閣が、1942年に「華人労務者内地移入ノ件」という中国人強制連行を国策とするということを閣議決定しました。

花岡事件とは、秋田県大館市…当時の北秋田郡花岡町には藤田組（現在の同和鉱業）の花岡鉱業所があり、銅の戦時増産体制が敷かれていました。藤田組の土木部門を請け負っていたのが当時の鹿島組であり、986名の中国人が強制連行され、「中山寮（ちゅうざんりょう）」と呼ばれる施設に収容され、労働を強制されていました。

秋田の厳寒の地にあって、寒さと飢えをしのぐための衣食住はあたえられず、極度に劣悪な衛生状況のもと、限界を超えた過酷な労働を強いられ、さらに「補導員」が虐待と凌辱の限りをつくした。死亡率は約42%…死亡者数の多さでは、日本国内の強制連行の記録の中でも有数の劣悪な実態を示しています。

いまから65年前…1945年6月30日、花岡では過酷な労働と虐待に耐えかね、「民族の尊厳、そして人間の尊厳を守るため」一斉蜂起しました。近くの獅子ヶ森などに逃走するのですが、失敗に終わります。

憲兵隊、警察に現地の民間人をも加えた圧倒的多数により鎮圧され、鉱山の娯楽施設「共楽館」前の広場に3日間、炎天下に数珠繋ぎにされ、虐待が加えられ、この間だけでも100人以上が虐殺されました。

終戦直前に起きた花岡事件の関係資料を展示・保存する「加害の歴史事実」を記憶し、「わすれてはならない」語り継いでいこうという「花岡平和記念館」が、事件から65年目によりやく完成した。

記念館建設を進めた大館市のNPO法人「花岡平和記念会」の川田繁幸理事長（56）が「将来に正しく向き合うには、過去の事実と向き合う必要がある。若い世代が事件を考えることによって、深い人間愛、国際感覚がもたらされ、社会の在り方の指針が与えられる。そうした役割を担う記念館になってほしい」とあいさつをした。

「花岡平和記念館」については各自で調べてください。